

世界的に大災害が発生し、暗いニュースの多かった2004年があけて、もう4月！2005年は明るい年になって欲しいものと願っていましたが、3月には有史以来の福岡沖地震。被災された方々には心よりお悔やみ申し上げます。天災は忘れた頃にやってくるなんて申しますがまたかという有様。人の力で逆らえない圧倒的な自然の力、アナドレませんね。良い意味で自然に対して謙虚に生きていけたらなどシミジミ思う昨今です。

皆様お元気で過ごしてでしょうか。今年もアスパラ・メロンのご案内の時期がやってきました。富良野は1、2月雪が少なかったのですが3、4月に入ってから雪・雪・雪、太陽さんがなかなか出てくれません。天気予報も雪マークから雨マークが見られるようになり、ようやく雪解けが進み始めました。でも、まだまだ畑は真っ白です。

**手作りのバードテーブル**に今年はたくさんの鳥たちが来てくれています。野鳥の世界でも遅い雪解けで食べ物なかなか見つからないのでしょう。ミヤマカケス、アカゲラ、シジュウカラ、ツグミ、ムクドリ、ヒヨドリ。家の中から餌の取り合いを見ていると飽きません。体長の大きい順にエバっています。この中ではカケスが一番大きいのでヒヨドリなどをにぎやかな声で「びよー！びや・び・びー・びー（お前！あっち行け！）」と追っ払っています。一番大きなカケスはモヒカン頭にしていて特に威張っています。モカ親分は手下たちを従えやってくるとえさ台の止まり木（家では上座と呼んでいる）に落ち着き、手下に一喝！「びやー！びよびよびよびびやー！（やろども！カラスの野郎が来る前にかかれ！）」…近くの白樺の枝にはツグミやヒヨドリが切なそうにしています。見てみぬ振りをしているのがとってもメンコイですよ。2・3日前からヒバリが上空で囀りだしました。やはりヒバリの声を聞くと「春だなー」って実感です。家にやってきている小鳥たちも雪解けが進むと山に帰っていきます。ツグミだけは冬だけにやって来ている渡り鳥、最近見ないから今頃あんな小さな体で日本海を大陸に向けて渡っているのかなあ。ほとんど一人で餌場にやってきていたツーくんは無事だろうか。…なんて…寒くて静かな田舎の家では地味な楽しみも結構あるのです。

今年の**メロン** 胸位まで積もっていた雪を投雪機ではね、ハウスの近くはスコップではねます。この作業が年初め2・3月の農作業になります。まず苗つくりのハウスから3重にビニールを張り、ポイラーで温水を通して25度以上に、7月初め収穫分から順に骨だけのハウスにビニールを張っていきます。加温するハウス7本が段取りできていたのですが、太陽さんが出ないのでなかなかハウス内の地温が上がリません。13日ようやく最初の分の定植が終わりました。一週間から十日おきに8月中旬収穫分まで植え付けしていきます。今年は原油高騰のため燃料の灯油が昨年より1リッター10円の値上げ、かなりの負担ですがメロンのためには温度を控えるわけにもいかず、今後の天候に期待しています。

**アスパラのルーツ**を調べてみました。アスパラは18世紀後半にヨーロッパから日本に伝わってきました。始めは鑑賞用として、明治時代に入ってから缶詰加工用のホワイトアスパラとして栽培されてきました。緑黄色野菜が健康食品として注目されるようになった1970年頃からグリーンアスパラの生産が増え、瞬間に家庭の食卓に広まりました。現在では新品種のムラサキアスパラも加わって、北海道から九州、四国まで日本全国で栽培されています。アスパラは熱帯から亜熱帯まで、世界中で広く栽培されていますが栽培面積当たりの収量は日本がダントツ1位です。

品種には大きく分けてオランダ型（寒冷地向き）とアメリカ型（西南暖地向き）があります。現在当ファームで栽培しているのはウエルカム（アメリカ型） ガインリム（オランダ型）の2種類です。今年は10アール分（コロボックル・オランダ型新品種）の植え付けを予定しています。ウエルカムの更新と需要が多い為です。もう細い芽がたくさん出て5月の定植に備えています。近年ホワイトアスパラの生食用の人气が高まっています。私どもも栽培を考えてみたのですが、ホワイトは培土や培土くずしの作業には多大な労力が掛かること、メロンと作業が集中してしまう為栽培は出来ないでいます。ホワイトアスパラは基本的に、品種はグリーンアスパラと変わらないのですが、土から出てくる前に培土して若莖を軟白したものです。栄養面では劣りますが、独特の風味があり根強い人気があります。（えみこ）

喫茶店「**森の時計**」オープン 「北の国から」に続き 倉本聰脚本富良野発の人間ドラマ「優しい時間」が1月13日から3月24日までの間放映されました。ご覧になった方もいると思いますが…あらずじはエリート商社マンの湧井勇吉が息子拓郎の運転する車の事故で妻のめぐみを亡くしたことを機に、会社を辞め妻の故郷富良野に移り住み喫茶店「森の時計」を始め、この店を舞台に繰り広げられる様々な人間模様と事故を機に断絶していた父と息子の絆の再生を描いたものでした。ここに出てくる喫茶店「森の時計」の名前の由来は先生の著書「ニングル」（理論社）の中の「森の時計はゆっくり刻むが、人間の時計はどんどん早くなる」という所からつけた物で、先生は「時計」というテーマを自分の中に以前からお持ちになっていたらしいようです。

ドラマの第6話の中で「森の時計」へスキー客として来た（父子でペアルックを着ていた）時計メーカーに勤めている人が「以前人から頼まれて\*森の時計\*つまり一年で一回転する柱時計を作ろうとしたが、ゼロコンマ何秒、あるいはもっと細かく刻むと時計は作れるが、もっと遅く、もっとゆっくり回る時計はどう考えても出来なかった」と話すシーンがありましたが、これは実際にあった倉本先生のエピソードだそうです。またドラマに出てくる「北時計」は東京から富良野に住み始めたときに建てた喫茶店で、北の時計とい

うか自然の時計に合わせて暮らそうと思って、「北時計」と名付けたものだそうです。そして「森の時計」について先生は『「森の時計」には今のような新しさはないかもしれないけれども、もっとゆったり心の優しさを与えてくれますよ』とっています。そんなさまざまな思いや拘りを持って作られた「森の時計」が先日(3月19日)オープンしました。

場所は新富良野プリンスホテル敷地内にあるニングルテラスから徒歩5分位の森の中にあります。

初日は30分から1時間待ちの行列も出来たとかで……こちらにいらした時は是非あのテーブルでコーヒー豆挽いて森の木々や動物たちの声を聞きながら\*森の時間\*を肌で感じては如何でしょうか？ (ひでお)

知ってますか？ **有機農産物**と**特別栽培農産物**の違い。以前から分かりにくい農産物の販売表示に関してのおさらいです。農産物を販売する際、無農薬、減農薬、減化学肥料栽培や単に有機栽培などの表示がありましたが、分かりにくいという消費者の疑問に平成16年4月以降に生産される農産物から新ガイドラインが適用されることになりました。無農薬栽培の方が有機農産物より安心な印象、減農薬や減化学肥料栽培で具体的にどの程度使用されているのか分からないなどが消費者から指摘されました。まず「JAS法」とは…「農林物質の規格化及び品質表示の適正化に関する法律」のことで、以前は「無農薬栽培農産物」、「無化学肥料」、「減農薬」、「減化学肥料」などと表示された農産物を統一して平成15年4月に農林水産省が「特別栽培農産物」と変更しました。つまり販売する際、無農薬、減農薬、自然栽培などと表示はできなくなり、栽培法を表示する場合有機農産物以外は全て特別栽培農産物となります。このガイドラインの対象となるのは、「未加工の野菜・果実」「乾燥調整した穀類・豆類・茶等」、不特定多数の消費者に販売されているもの。

以前は私どももお客様には紛らわしい表現でPRしておりましたが、ガイドラインの言い回しを盾にとるわけではありませんが私どもは不特定多数のお客様に販売はしておりません。特定のお客様にどういった栽培をされたか公開し納得してお買い上げいただいているつもりです。前にもここで書かせていただきましたが、有機認定を受ける経費や手間よりも特定のお客様に直接お話を聞いていただき私どものつくった農産物の中身を理解していただくことを優先しました。もちろんこれには限界がありますが、今後販売量を増やしていかなければならないので認定はないよりはあったほうがよいかと前向きに考えています。

特別栽培農産物表示ガイドラインとは…「化学合成された農薬及び肥料の使用を低減することを基本として、土壌の性質に由来する農地の生産力を発揮させる(土づくり)とともに、農業生産による環境負荷をできる限り低減」することを原則とし、次の二点を満たす栽培方法で生産された農産物のこと。

- ① 化学合成農薬の使用回数がその地域の従来の栽培方法(慣行栽培)の5割以下。
- ② 化学肥料の窒素成分量がその地域の……の5割以下。

栽培された地域の慣行栽培の農薬使用回数と化学肥料の施用量は都道府県・市町村が作物ごと設定し、ホームページなどで公表することになっています。しかしながらこのガイドラインに罰則はありません。

ではJAS法に基づく「有機農産物」とは…「化学合成された農薬及び肥料を使用しないで栽培された農産物。「有機農産物の日本農林規格」より抜粋。

- ① 周辺から肥料、土壌改良資材または農薬が飛来しないように明確に区別されていること。
- ② 播種・植え付け前2年以上使用禁止資材(化学合成農薬・肥料等)を使用していないこと。
- ③ 組み換えDNA技術を用いて生産されたものでないこと。

基本的に使用可能な資材(農薬・肥料等)は化学合成されたものでないこと。

日本農林規格で定められた登録認定機関から認定を受けた農産物だけが「有機」や「オーガニック」の表示が可能。

違反した場合は50万円以下の罰金。

詳細は農水省のホームページ「食品表示とJAS規格」の「有機農産物」に掲載されています。

中身は大変分かりにくい規格書ですが、以前よりは前に向いた感じですが。市場を経由し不特定多数の消費者に届ける情報ですからこの仕組みはこれが限界なのでしょうか。できることなら生産者が消費者に直接農産物を届けられるのが安心ですね。少なくとも私どもはその方向を目指したいと考えています。ウソはつかずにありのままお届けする作物の情報をお知らせします。肥料や農薬の種類、名称、使用量ありのままなんでもお答えします。お尋ねください。

## 大好き 開高語録

人はたがいに相手がわからないまま長い、長い手で首を絞めあっているのではないだろうか…

人の示す表情では、顔であれ、手であれ、後ろ姿ほど寡黙に強力な説得力を持っている物はない。

朝は夜になる。今日は昨日になる。花は種になる。歌はこだま 罅になる。現在は一瞬ごとにとめどめようなく過去となる。

されば諸君、一瞬に永遠をかいま見ようではないか。知恵が哀しみにならぬうちに。一歩立ちどまろうではないか。

(かずひと)

